

まだ見ぬガス器具

～災害に強いLPガス Part.1～

配送課 東山 晃

2019年も後僅かとなりましたが、皆さんご機嫌いかがでしょうか？

年末の時期になりこの一年を振り返ってみるのですが、今年は沢山の出来事がありました。5月には元号が変わり令和がはじまりましたし、消費税も10%になりました。でもやはり一番は毎年ながら思うのですが災害に関する事象、今年は9月9日に千葉県で多大な被害をだした台風19号による大規模停電ですかね。

幸いこちらの方は大きな被害は無かったのですが、毎年のように地震や台風による自然災害、被害が深刻化しているような気がします。いつ何時どんな災害に襲われるかわからないような今日この頃、災害への備えというのも大切だと思います。

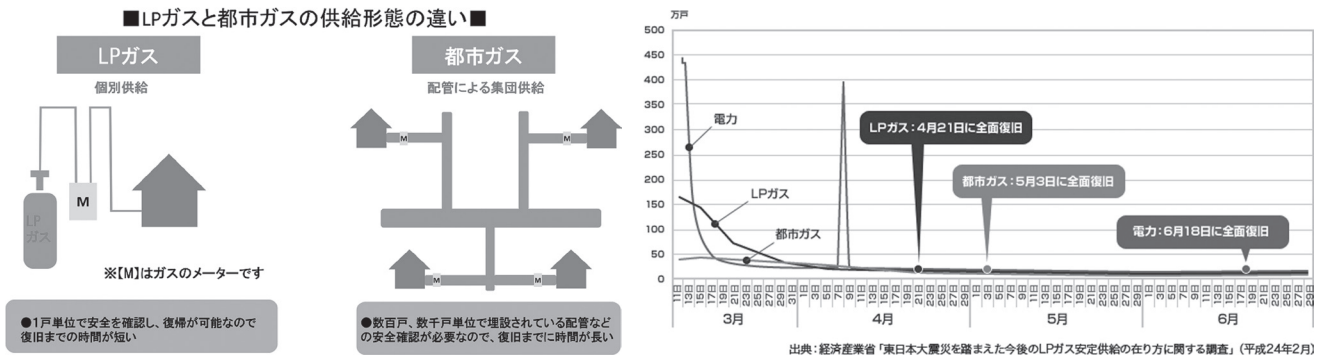
特に災害で怖いのはライフラインが遮断されてしまうこと。電気や水などは生活するうえで欠かせないものですが、災害時には復旧にかなりの時間を有するような被害を受けてしまうことがあります。我々が供給しているプロパンガスも皆さんの生活に欠かせないライフラインの一部です。しかしながら、やはり自然災害時には使用できなくなるような被害を受けてしまうことが当然あります。

私は滋賀県の信楽に住んでいるのですが、2013年9月の台風18号で街の中心部の家々で床上浸水するという災害を目の当たりにし、その復旧活動にあたりました。

当時、私は地元のガス供給会社で働いていたのですが、床上浸水した川沿いの住宅に設置していたガスボンベ、供給設備、低い位置に取り付けられていた給湯器や風呂釜は流されてしまったり、使用不可になってしまいましたし、停電や断水被害もありました。

しかしながら、プロパンガスに関しては電気や水道といったライフラインに比べ各段に復旧が早く災害に強いとも言われており、事実被害を受けた翌日から半月足らずで全ての家庭で復旧することができました。

それはプロパンガスがボンベによって各住宅に個別に供給する分散型エネルギーだからです。都市ガスや水道、電気のように基地から枝分かれするようにたくさんの顧客に同時に供給する集中型エネルギー（系統供給）は復旧作業や点検に時間がかかるうえに基地事態が被害を受けてしまうことがあります。プロパンガスの場合は個別供給なので点検や復旧作業もスムーズに行えます。



また、皆さんのご自宅のほとんどがそうだと思うのですが、ガスボンベが二本立っていると思います。一本は現在使用しているボンベ。もう一本は予備容器になり在庫となっていますので土砂災害等で道が寸断されボンベを交換できないといった場合でも直ちにガスが切れて使えなくなるということが無いようになっています。

そしてさらに当社アポロ興産㈱は全国に342か所ある災害に特化した中核充填所の認定を受けています。万が一に備えLPガスの十分な備蓄、在庫を確保しています。

ここまでプロパンガスの災害に対する強みを書かせていただきましたが、皆さんもお気づきだと思います。いくら災害時プロパンガスが使えても電気が止まっていたらコンロくらいしか使えないのではないかと？

確かにその通りです。電池で着火するコンロに関しては使用できるものの、ガス給湯器やファンヒーターなどは電気を使いますので必然的に使用できなくなってしまいます。

そこで、私が今回ご紹介したいのが『ガス発電機』なのですが、つつい書き込み過ぎてしまいましたので発電機のご紹介は次回に回させて頂こうと思います。まさかの二部構成になってしまいました次回乞うご期待!!

それでは皆さん よいお年を ありがとうございました。

橋本のつばき

乳児の液体ミルク解禁!!

乳児の液体ミルク解禁!!

乳児の液体ミルク解禁!!

乳児の液体ミルク解禁!!

乳児の液体ミルク解禁!!



解禁!!

乳児の液体ミルク

ホームガス課 宮本 剛佳

皆さんこんにちは！ 日頃よりアポロ新聞をご愛読いただき誠にありがとうございます。今回は私自身も子育て世代であることから、気になる商品がございましたのでご紹介させていただきます。

今年の3月から国内で乳児用の液体ミルクの販売が始まったことをご存知でしょうか？ 発売以来大変好評のようです。

母乳と併用して使用されることの多い粉ミルク。子育てされたご経験のある方ならばよくご存知だと思いますが、まず粉ミルクは熱湯に溶かして冷ますまで時間がかかります。子どもに飲ませて寝かしつけ、哺乳瓶の消毒を終えたら、次の授乳時間になっていることもあり、夜間や早朝の授乳は大変辛かったという方も多いのではないのでしょうか。そのような中で夫は一人いびきをかきながらグーグー寝ているという事もよく耳にしますが、まさに私もその中の一人でした。反省しなければならぬと思うこともしばしば…。話がそれてしまいましたが、液体ミルクは粉ミルクと違って子どもが泣いたら、すぐ飲ませられるのが最大の特徴です。常温でも保存ができ、開封して哺乳瓶に移せばすぐに飲ませられるため大変便利です。

液体ミルクを使用している方についての記事を目にしたことがあるのですが、その方の話では子どもと一緒に外出する時や、夫や高齢者の母に子どもを預けるときに使うほか、災害用に自宅に常備するのに重宝されているとのことでした。また、温度調節の手間や失敗がないので、人に預けやすくなったそうです。

液体ミルクは海外で普及する一方、国内では長年、製造・販売が認められなかったそうですが、2011年の東日本大震災や16年の熊本地震の被災地に海外の液体ミルクが救援物資として届けられたことがきっかけで注目が集まり、母親らが国内での商品化を求めて署名活動を展開した結果、昨年8月に厚生労働省が規格基準を定めた改正省令を施工して解禁されました。そうして今年3月に江崎グリコと明治の2社が販売を始めました。

液体ミルクは粉ミルクに比べて価格が2～3倍と割高なこと、業界内では売れ行きを懸念する声もあったそうですが、いざ販売してみると「外出時に便利」「授乳が楽になった」などと好評なのだそう。ベビー用品店やドラッグストア、コンビニ、外出先となる東京ディズニーリゾートや西日本高速道路のサービスエリアなども取り扱いを始めたようです。取り扱い店舗数は当初計画されていた数の2倍、売り上げに関しては当初計画の3倍近くに上るそうです。(明治、江崎グリコ調べによる)

また、液体ミルクは賞味期限が半年から1年であり、災害時は断水や停電が起こる可能性があり、調乳の手間の要らない液体ミルクは有用性が高いとの声もあるようです。災害時には衛生面でも母乳が良いが、ストレスなどで母乳が出にくくなることもあるので、液体ミルクを常備する際は使い捨ての哺乳器や紙コップも一緒に備えておくとうれしいです。

“備えあれば憂いなし”とあるように乳児のいるご家庭では、自宅での液体ミルクの備蓄も考えてみてはいかがでしょうか？

